

二月六日から八日にかけて、沖縄自由貿易地域那覇地区で「沖縄フリーゾーンフェスタ」が行われた。初日の六日（金）の来場者数およそ三千人、翌七日六千人、最終日の八日には日曜日という

は、それほど苦に感じているように思えなかつた。

別館の三階では、屋外展示場とは多少店の雰囲気

縄自由貿易地域の本来の姿は、この域内消費型沖縄自由貿易地域の形成・

民族舞踊などのアトラクション、さらに子供連れの家族のためのスタンプラリーなどのイベントは

の確立が提案されていることは、今回のこのフリーゾーンフェスタが物語っているように思えな

沖縄自由貿易地域の「虚無の姿」が浮き彫りになったと言えよう。

一階の通常駐車場となつていている場所は、一見北谷のフリーマーケットが思い浮かぶような屋台や

三坪程度の区切られた空

ここ数年、マスコミなどを通じて沖縄自由貿易

来場者にサービスを提供するといった心配りか

また、今回のこの沖縄フリーゾーンフェスタは、われわれ沖縄県民や

沖縄自由貿易地域に携わる人々に大きな課題を残してくれた。

目立ち約一万人が訪れた。

屋外展示即売会場となつていた。屋台では主にピザや軽食などを取り扱

品の売り込みを行っていた。特に人気があったのは、試飲を介して自

地域の問題点が指摘されたことからすると、今回この三日間で延べ人数に

であったに違いない。一昨年からの沖縄国際都市形成構想での沖縄自由

貿易地域について、デューティーフリーショップ

は、このようなショートスパン（短期）およびイベント的な繁栄ではなく、ロングスパン（長期）的な繁栄をもたらさないとはいけないものである。よって、この成功を一時的なものにするのではなく、そこから得られる教訓によって本来の沖縄自由貿易地域の形成・確立、さらに、関係者の資力が大いに期待されることである。



高良 守

フリーゾーンフェスタの教訓

形態とスパンの在り方提起

メイン会場は、駐車場からおよそ五〜六百坪離れたところであり、スペースの問題から隣接する那覇港に車を駐車しなければならなかつたが、め

い、一階駐車場の展示即売会場では衣服やウイスキー、逆輸入品を展示および販売する業者が軒を

滞留することがそれを物語っていた。やはり、沖縄

この三日間で延べ人数に

貿易地域について、デューティーフリーショップ

消費や出費が発生するものであると、解されるべきである。つまり、今回のこのフェスタは現在の

（那覇市高良二ノ三ノ八、大学院生）